

平成25年度 外部評価委員会 議事録

徳島県立総合大学校とくしま政策研究センター

1. 日 時：平成26年3月17日（月）14:00～16:00
2. 場 所：徳島県自治研究センター 1階 まなびーあるーむ
3. 出席者：
外部評価委員
玉有委員長，友滝副委員長，杉本委員，田中委員，田村委員，米田委員
政策研究センター職員
小泉所長，尾関主任研究員，福壽研究員，大岩研究員，新居崎研究員
吉野研究員
関係部署職員
岡久係長，中山主事（南部総合県民局経営企画部）
紙屋課長補佐，久原係長，西分主事（西部総合県民局企画振興部）

4. 配布資料

次第，出席者名簿，配席図，政策課題研究の評価の視点，評価表（様式）
評価結果一覧表（様式），所見一覧表（様式）
平成25年度調査研究報告書，平成26年度調査研究テーマ概要

5. 委員会実施概要

開会挨拶 小泉所長
評価基準，評価結果の取扱いについて
平成25年度調査研究結果報告，質疑応答
平成26年度研究テーマ概要説明，提言・助言

6. 議事概要

議事1「評価基準，評価結果の取扱いについて」

(1) テーマ性，ニーズ把握，(2) 研究の内容，(3) 研究の活用の視点毎に各委員（6名）が5段階評価で、「5 非常に優れている，4 優れている，3 普通，2 あまり評価できない，1 評価できない」により採点を行い，3つの視点毎に委員全員の採点結果の小計と全評価項目の採点の合計を公表する。併せて，委員からの所見について，代表的なものを公表することについて，各委員から了解を得た。

議事2「平成25年度調査研究結果報告，質疑応答」

1. 「農工商連携・6次産業化ビジネスモデル研究に対する質疑応答」

- A委員：青色八朔の販路は広がる可能性はあるか。
- A研究員：器，スライスして焼き物の下に敷くなど，柚子とは違う上品な香りがあるということで，他にもいろんな使い方，用途があるとの評価を受けている。

- 所長：これが軌道に乗って生産現場におろしていけたら、需要は広がると思う。
- B委員：カボスなど競合するような商品を想定して、対抗できる特色を打ち出すべき。
- C委員：フランス料理や色々な料理のなかでアレンジできるので、結婚披露宴の食事に使ってもらえるのはどうか。
- D委員：キクイモプロジェクトは、美馬市との連携が見えてこない。
- A研究員：生産者や西部総合県民局の農業普及員とは連携が取れているので、美馬市とも連携を図っていきたい。

2. 「中山間地域における持続可能なコミュニティづくりに関する調査研究に対する質疑応答」

- A委員：大学が映像を作った後、発信は地域任せではなく、総合的に情報発信をどうやるかに力を入れていかないと、大きな効果をあげるにつながらない。
- B研究員：フェイスブックなどのサイトを中核にして、結びつきを深めていくことで進展があると思う。
- B委員：情報発信の先に目指すものを、もう少し明確にしていきたい。
- C委員：全然縁もゆかりもない孫がやっているという感覚で情報発信させたらいいかと思う。また、情報発信は機会があるごとにやっていくべき。
- B研究員：学生が持つツールを使ってPRすることで、地域のコミュニティ作りの機能を担うという意識が深まった。木屋平に限らずいろんなフィールドに学生に入ってもらい、学生の持つ力や技術を活用していきたいと考えている。
- E委員：学生が入っている間だけではなく、地域を引っ張っていける方も影響を受けて、地域リーダーが出てきたらいい。
- B研究員：木屋平は今、地域おこし協力隊の方がいないので、今まさにこういうことを一緒にやっていただける方を探しているところ。

3. 「地域の夢づくり・人づくりモデル調査研究に対する質疑応答」

- A委員：頑張っている人たちの情報をまとめ、この情報をどういうところに、どういう手段で伝えて浸透させていこうとしているのか。
- C研究員：紙媒体で報告書にしたので各市町村、県内の大学、シンクタンクに送るほか、主催講座開催時にも配布する。
- B委員：失敗例を探せというのも変だが、失敗の原因はなんだったのかというような研究も中にはあってもよい。
- D委員：せっかくの4年間の成果なので、引き続き徳島のケースからリーダーづくりの一般モデルを追求して欲しい。

- A 研究員：大学生が地域リーダーから直接学ぶ，それも人づくりのひとつの方策であると考えている。

4. 「離島（出羽島）振興に関する調査研究に対する質疑応答」

- A 委員：「他の離島との差別化を図るための工夫が必要」とあるが，差別化の方法，方向性について研究，検討が進んでいるなら教えてほしい。
- D 研究員：「ミセづくり」という出羽島ならではの町並みが残っており，重要伝統的建造物群に指定してもらうための調査を始めている。指定を受けたらそれを売りにPRしていきたいと思っている。
- D 委員：瀬戸内アートとは規模も違う。出羽島アートの方向性とは。
- D 研究員：手作り感のある地域の住民が主体となった田舎ならではの温かみのあるアートによる，癒やされる空間を目指している。
- A 委員：アートの時だけでなく，日常的にもう少し人が訪れるようにするためには何が不足しているのかということをもう少し研究をすればよいと思う。
- D 研究員：一気に人が来るとそれはそれで島の人も対応できない。ハワイで見るとような凄い波が出羽島で起こることを，サーフィン仲間にオープンにできるような島の情勢を作りたい。

5. 「にし阿波集落再生・活性化プロジェクト調査研究に対する質疑応答」

- D 委員：この調査研究は実践に重きを置いたものか。
- A 研究員：昨年度の伊島は阿南市，出羽島は牟岐町と連携を密接にしながら実施し，西部総合県民局は三好市や東みよし町等，2市2町と連携しながら実践を行うという意味合いが強い。
- A 委員：これはこれで非常にいいのではないかと思う。
- D 委員：中山間地域の飲料水確保に苦労があるという話は，水に困っていない人には驚きがある。地すべり対策工事において水を抜く，その水を活用できないかということだが。
- E 研究員：結果としてまだ成功事例とはならず，住民感情を踏まえ，地域で共同利用するなどの調整を根気強くやっていく必要があると考えている。
- C 委員：地域で手伝って欲しいことを挙げてみて，みんなができそうなことを拾い集めてしっかり発信するべき。
- E 研究員：受け入れ側にもある程度の体力がないとマッチングができないので，共同パートナーの地域内での掘り起こしにも力を入れたい。
- D 委員：他県の事例研究もすると，集落の人的な支援について様々な規模の比較ができて大変よいかと思う。実践事例だけでなく，もう少しモデル的な研究もすればより豊かなものになる。
- F 委員：一番問題点が見えているのは研究員なので，自己評価があればよい。それと調査研究報告書は，フォーマットに統一性があればと思う。

- D委員 : ストレートにすぐに外部評価という形になっているので、まず、一次的に自己評価をすればよいというご指摘。
- F委員 : 文面でというのは難しいので、発表するときに言ってもらうだけでもよい。
- B委員 : 過疎の問題、人を呼び込む等以外に、もう少し明るいテーマが欲しい。

議事3「平成26年度研究テーマについて提言・助言」

- A委員 : 毎年中山間地域とか過疎地が研究テーマになっているが、都市部の課題をテーマに選ぶのは難しいものか。
- A研究員 : 調査研究テーマについては、県庁の各部局に対して企画提案を求めており、中山間地域に限定している訳ではない。
- B委員 : まんべんなく県下でやりましょうということになっているが、選択と集中というのにも必要。
- D委員 : 政策研究センターのトップダウン的な決め方も必要ではないかということを含め、創造的過疎というコンセプトを徳島県から発信するのもありかと思う。
- C委員 : 青色の釜になるような八朔は最初にどこに申し出があったのか。
- A研究員 : 政策研究センターに。すだちの冷蔵管理技術があるので試しにやってみましょうかということでスタートした。
- C委員 : 県民からも要望を受けるといふ発信も必要ではないか。
- 所長 : 県庁の各部局に照会をかけて一緒に調査研究しており、また、大学とも一緒にやっているが、県民からの募集を考えてみてもいいかと思う。

**平成25年度 徳島県立総合大学校とくしま政策研究センター
外部評価委員会 評価結果一覧表**

番号	政策課題研究名	(1)テーマ性, ニーズ把握 (30点)	(2)研究の内容 (30点)	(3)研究の活用 (30点)	合計 (90点)
1	農工商連携・6次産業化ビジネスモデル研究	27	27	25	79
2	中山間地域における持続可能なコミュニティづくりに関する調査研究	25	24	22	71
3	地域の夢づくり・人づくりモデル研究	24	23	19	66
4	離島(出羽島)振興に関する研究	25	25	22	72
5	にし阿波集落再生・活性化プロジェクト研究	25	24	24	73

※1 政策課題研究の評価項目の視点は次のとおり

(1)テーマ性, ニーズ把握

①地域課題, 地域再生等の課題解決を適切に踏まえた内容となっているか。②県内経済, 中山間地域等への波及効果・活性化を期待できるか。③今, 実施すべき必要性があるものか。

(2)研究の内容

①創造性や新規性に富んだものか。あるいは, 新しい価値観(地域知), 可能性を広げるものか。
②調査や検証が十分行われた内容となっているか。③大学等の高等教育機関, 非営利組織, 民間企業, 市町村, 県民等との連携協力, 協働, 参画等が得られたものか。

(3)研究の活用

①政策立案, 政策提言への活用に繋がるものか。②実用性, 実現可能性が高いものか。③生涯学習の意義・役割・推進を果たすものか。

※2 評価基準と評価結果の公表について

(1)(2)(3)の視点毎に各委員(6名)が5段階評価で, 「5非常に優れている, 4優れている, 3普通, 2あまり評価できない, 1評価できない」により採点を行い, (1)(2)(3)毎に委員全員の評価結果の小計と全評価項目の採点の合計を公表する。併せて, 委員からの所見について代表的なものを公表する。

平成25年度 徳島県立総合大学校とくしま政策研究センター 外部評価委員会 所見一覧表

番号	政策課題研究名	(1)テーマ性、ニーズ把握	(2)研究の内容	(3)研究の活用
1	農工商連携・6次産業化ビジネスモデル研究	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の既存資源に光を当て、新たな産業化を図ろうとする視点は評価できる。 ・6次産業化は、徳島県の経済活性化を考えるうえでの大きなキーワード。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに、市町村の関係行政部門とも一層の連携を図りたい。 ・青色の八朔を器にした目のつけ所が面白い。容器のみならず、他への活用方法にも期待したい。 ・八朔に関しては、生産者と需要者のマッチングをうまく進め、商品開発につなげている。キクイモは、医薬農連携の今後の可能性を感じさせる。 ・全国レベルで生き残れる商品となりうるかの視点も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産能力と市場規模のバランスを見きわめながら、商品開発と販路開拓を進めていくことが大切と思われる。 ・八朔生産農家への経営意欲を喚起することにも繋がっていくのではないかと。6次産業ビジネスモデルとして、「青色八朔」及び「キクイモプロジェクト」には大きく期待している。生産者と関係機関がうまく連携し、消費者のニーズに合わせた商品の開発に取りくんでもらいたい。販路の拡大にも努めていくことも肝要である。 ・八朔については、阿波観光ホテル料理長や浜内千波先生といった「人」のネットワークによる販路拡大が考えられる。キクイモは今後の研究成果に期待。
2	中山間地域における持続可能なコミュニティづくりに関する調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・限界集落の抱える課題について、深く研究・分析ができています。 ・大学、学生の感性、ネットワークを地域活性化に生かすのは効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究であるためには、大学生らの実践活動から一歩引いて客観的に見ていく視点が必要でないか。 ・木屋平地区の魅力発信の試みとして一定の効果があったことは評価したい。 ・「ICTとくしま大賞 e-とくしま推進財団賞」や「とくしまNPOきらめき大賞」の受賞は、研究内容が客観的に認められたことを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題と大学資源とのマッチングの取り組みとして先行事例になりうる。 ・徳島文理大学生を「とくしま政策研究センター」の研究員として迎え、学生の持つ感性やICT能力を使い、木屋平地区の発信ができたことは大きな成果があった。この事業を一過性のものでなく、COC構想を踏まえた上で、大学との連携強化を図りながら、持続可能なものとしてもらいたい。 ・研究成果を県内外にいかに関係発信していくかが今後の課題、情報発信によって、どんな成果を求めていくかも重要。 ・より具体的な活用目標を明確にすべき。
3	地域の夢づくり・人づくりモデル研究	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化等におけるリーダー等の「人づくり」の重要性は誰もが認めるものであるが、その構造や手法について解明、開発できれば大きな意味がある。 ・地域活性化にはキーパーソンが存在が不可欠。そこに焦点を当てたテーマ設定は適当。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続調査の最終年であり、ケーススタディを踏まえて人づくり(リーダー創出)の構造の析出に迫って欲しい。 ・今回のモデル調査研究は、県の中心にある「眉山大学」と西部の「妖怪村」を取り上げ、興味深い内容であった。 ・地域リーダーの考え方、行動を分かりやすくまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を大学教育の場として位置づける提案は有意性があるが、リーダーなどの人づくりシステムを一般的なモデルとして提案していくには更なる分析と仮説、検証が必要と思われる。 ・地域リーダーにスポットを当て、地域の活性化や人材育成を目的に県内の人材発掘や活動への意欲、実践へのモデルとしてこの報告書の持つ意義は大きいと思われる。 ・地域のリーダーになり得る人材を育てるためには、大学生に本成果の内容をできるだけ伝えることが必要。
4	離島(出羽島)振興に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内国際芸術祭の成功等で離島に脚光が当たっており、テーマ性がより高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座談会やインタビュー、アンケートなど地道な作業を積み重ねており、今後の展開にしっかりした基礎を提供しうるものと考えられる。 ・出羽島に関する調査が丁寧な実施されたことを確認できた。住民へのヒアリングは、ことある毎に行い、彼らの意向やニーズを細かく分析することが必要である。 ・島の魅力をさらに高め、イベント開催時以外でも訪れる人を増やす方を研究テーマに入れて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題へのアプローチの仕方は、他の離島や地域についても応用しうるのではないかと。 ・出羽島は魅力のある島であることを島民自らが認識し、持続発展させる工夫と努力が欠かせないことに気づかなければならない。そのためにも、関係機関が情報、調査結果、地域の課題を共有し、可能なことから実践に移していくことが大切だと考える。 ・出羽島の中から、島おこしのキーパーソンとなるような熱意と実行力のある人が出てくるかが鍵。
5	にし阿波集落再生・活性化プロジェクト研究	<ul style="list-style-type: none"> ・実践性の高いテーマ設定がされている一方、通常業務での取り組みとの違いの整理が必要ではないか。 ・住民へのアンケート調査の結果より、地域の課題を見つけ、3つの事業の実施へとつながっていった点は評価したい。 ・行政の施策と直結する政策研究センターが取り上げるべきテーマ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導の事業的要素が強いが、「にし阿波観光まちづくり活動」は「社団法人そらの郷」へと引き継がれ、次への展開を見せている。 ・政策提言や具体的事業内容に結びつく内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な個別課題を対象としているため、活用・実践への距離が近いと評価できる。 ・「応援し隊事業」に対するニーズが高い西部と支援団体とのマッチングが求められている。大学や企業への働きかけと実績のアピールも大切である。H23年度のアンケート、H24、H25の実施事業からH26年度の新たなモデル研究課題へとステップアップしてきたことがよく解る。人材の発掘と育成をテーマに、新年度の取り組みを期待したい。 ・提言内容を実現できるかどうか今後の課題。